優秀賞

言ばの矢

静岡県 磐田市立豊田南小学校二年　山中 一起

ぼくの右足のふくらはぎには、アザがあります。大きさは三センチメートルくらいで、入道雲みたいな形で、こげちゃ色をしています。左手くびにもペロペロキャンディみたいな形のうすちゃ色のアザがあります。ぼくが、生まれた時からあって、いたくないし、ふつうなことです。

でも、七月の下校の時に、「おまえの足にウンチがついてるぞ！」ってきゅうにわらいながら言われました。ぼくは、いやな、かなしい気もちになりました。アザはきたないのかなってふあんにもなりました。いえにかえって、お母さんに聞いたら、

「アザはきたなくないよ。いっきのとくべつなマークで、かわいくて大すきだよ。足のアザが右、手のアザが左ってわかるべんりなマークだよ。」

と教えてくれました。お父さんもお兄ちゃんも、

「きたなくないよ！」

と言ってくれました。

ちょっと前のじゅぎょうで、たんにんのひろき先生から教わったことがあります。

「わるい言ばは、むらさき色の矢になってあい手にささって、心をかなしいむらさき色にかえてしまう。むらさき色になった人は、むらさき色の矢をうちかえしたりしたくなる。そうしたら、みんなかなしくなってしまう。よい言ばは、オレンジ色の矢になって、あいての心をあったかいオレンジ色にかえられる。オレンジ色になった人は、まわりの人もオレンジ色の矢で、あったかい気もちにしてくれる。」

ぼくはあのとき、アザをからかわれて心にむらさき色の矢がささりました。またわらわれたらいやだな、こわいなって思います。そして、ぼくみたいにアザがある子がおなじように言われたら、かわいそうだし、たすけてあげたいと思います。みんなには、アザはきたなくないし、ふつうなことって知ってほしいです。アザを知っていて、わざとわるい言ばを言う人には、言ばの矢の話を教えてあげたいです。

ぼくは、せかい中からむらさき色の言ばの矢がへって、オレンジ色の言ばの矢がふえてみんながオレンジ色のあったかい心になればいいのになと思います。

それが、ぼくが「ぼくを見つめながら考えたこと」です。